

私はたこであります

尋乙四

藤川吉郎

私はたこであります。たこやでたくさんわたしらの  
の中間をこしらへて私を持って来てにっきだん  
じやうの繪を書きました。それを店に出してを  
きますと皆道があるく人はにっきだんじゃくく  
とみんないひながあるきました。そうしてある  
うちに一人の子供が来て私を買っていきました。  
何をするかと思つてゐると私に穴をあけて糸を  
とうしてこんどは屋根の上にも持つていって風の  
吹くのをもつていますとまもなく風が吹いて来  
て私に糸をおすんで上げたりました。私はちっ  
と上に上がった。下に居た人々はあにつきだんじ  
うが上がった。下に居た人々はあにつきだんじ  
をいつうかかた。とさけぶのがきこえます。それ  
に子供は糸をはなしてしまひました。すると私を上げ  
た子供は糸をはなしてしまひました。すると私を上げ  
んな私の顔をさいてしまひました。そのうちみ  
んな私の顔をさいてしまひました。そのうちみ  
しなさいました。ものではいらあはれなすがたになつて  
しまひました。